

# 未来に向けて成長する都市 練馬区

人口約74万人、  
都心に近い利便性と  
みどり豊かな環境に  
恵まれた住宅都市

練馬区は、東京23区の北西、東  
京の中心から約15km、電車で約30  
分の場所に位置しています。地下  
鉄など、都心からの公共交通機関



住宅地の中で摘み取り体験!区内に30園ある「ブルーベリー観光農園」

も充実しており、池袋・新宿・渋谷・銀座などの主要駅へ乗り換えなしで行くことができます。23区の中では最も緑被率りよくひりつが高く、都心に近い利便性を享受しながら、農地や樹林、公園など多彩なみどりに包まれた暮らしを楽しむことができます。

本区の人口は約74万人です。東京23区で2番目、全国1741市区町村で19番目に人口が多く、日本の中で今なお人口が増え続けている、数少ない自治体の一つです。区民アンケートでは、住みよさと感じている区民は9割を超え、8割近くの区民が練馬区への愛着を感じると答えています。

## 市民生活と都市農業が融合するまち

都市農業は本区の大きな魅力の

一つです。住宅地の中に農地が点在し、自宅近くの畑で採れた農作物を購入できるなど、市民生活と生きた農業が融合する世界でも稀有な都市です。

都市農業の魅力と可能性を世界に発信するとともに、その魅力を共有し、相互に学び、さらに発展させていくため、令和元年11月に「世界都市農業サミット」を開催しました。世界5都市から農業者や研究者、行政関係者を招聘しょうへいして、国際会議（分科会・シンポジウム）を実施し、5都市とともに「世界都市農業サミット宣言」を発表しました。併せて、練馬産農産物を販売する「ねりマルシェ」、世界の料理や酒を楽しむ「ねりまワールドフェスティバル」「練馬大根引っこ抜き競技大会」など多彩なイベントを催しました。



世界5都市とともに「世界都市農業サミット宣言」を発表

さらに、本区は、農地制度や税制度の改善を国に要望してきました。都市農業振興基本法の制定と基本計画の策定に加え、生産緑地指定下限面積の緩和、特定生産緑地制度、生産緑地貸借制度の創設などは、この活動が実ったものです。

この新たな法制度を最大限に生かす、農地保全に取り組むほか、新たな用途地域である田園住居地域の指定に向けた検討を進めています。また、地区計画などの都市計画制度を活用した、新たな農地

保全制度を研究し、国・都と調整を進めています。

## 子どもたちの笑顔輝くまちへ

本区では、増加を続ける保育ニーズに対応するため、年間を通して11時間保育を行う私立幼稚園を区独自に認定する「練馬こども園」を創設するとともに、待機児童ゼロ作戦を展開し、この6年間で6千人以上、全国トップレベルの保育所定員増を実現してきました。その結果、待機児童は、平成25年の578人から令和元年4月の14人まで減少しました。既に供給が需要を千人以上、上回っており



令和元年は外国人留学生も多数参加!「練馬大根引っこ抜き競技大会」

りますが、地域における需要と供給のミスマッチなどにより、待機児童が発生しています。幼児教育・保育の無償化による保育需要の増加への対応を含め、待機児童の解消を図るため、保育所の整備や練馬こども園の充実など保育サービスを拡充しています。その一方で、将来、確実に児童人口は減少していきます。社会が大きく変わっていく中で、これからの教育・保育サービスはどうあるべきか、長期的な視点に立って検討しています。

子育ては誰が担うべきか、さまざまな考え方や価値観が存在しますが、最も尊重されるべきことは、それぞれの家庭の思いです。家庭で子育てがしたい、子どもを預けて働きたいなど、多様化する子育てサービスのニーズに応える施策を展開することで、子育ての形を選択できる社会を実現します。

## 参加から協働へ

区長就任以来、「区長とともに練馬の未来を語る会」を81回開催し、毎日のようにさまざまな現場に伺い、数百回にわたって区民や団体の皆さんの声を聴き、話し合

いを重ねてきました。地域の現場では、町会・自治会、NPO、ボランティア団体などによる多彩な活動が広がっています。地域の課題を「わが事」として考え、自発的に取り組む。こうした動きと連動して、区民サービスの充実を目指していく。これこそが私の目指す、練馬ならではの新しい自治の創造であり、時代の要請でもあります。「参加と協働」をさらに前に

## プロフィール

- ◆ 面積 48・08 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 73万9091人
- ◆ 世帯数 37万7713世帯

〔将来都市像〕みどりに恵まれた良好な環境の中で誰もが暮らしを楽しむ成熟都市

〔まちの特徴〕今なお武蔵野の面影を残すみどり豊かな自然。まちに潤いを与えるみどりのネットワーク。市民生活と融合した農業が営まれている住環境



練馬区長  
前川耀男



〔特産品〕練馬大根、キャベツ  
〔観光〕としまえん、東映アニメーションミュージアム、ちひろ美術館・東京  
〔イベント〕照姫まつり、練馬まつり、真夏の音楽会、練馬区花火フェスタ、みどりの風 練馬新能、Zeppainユニバーサルコンサート、練馬こぶしハーフマラソン



多数のボランティアとともに開催する「練馬こぶしハーフマラソン」

進め、「参加から協働へ」と深化させていきたい、そう願っています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 全ての人が笑顔になれる 「温か笑顔の東温市」の実現に向けて

### 健康福祉と教育文化の 香り高いまち

東温市は、県都松山市から約12km東に位置し、古くから交通の要衝として栄え、四国の大動脈である国道11号や松山自動車道により、本州方面へのアクセスが優れているほか、温暖少雨な瀬戸内式気候に属した内陸部に位置しているため、津波災害などの恐れがない利点を有しています。

また、昭和48年に愛媛大学医学部が市内に開設され、幼稚園から大学までのあらゆる教育施設が整備されています。さらに、愛媛大学医学部附属病院や愛媛医療センターをはじめ、多くの医療機関があり、令和元年6月に東洋経済新報社が発表した「2019都市データパック」における人口1万人当たりの医師数は、全国815市区の中で3位となっています。

設が整備されています。さらに、愛媛大学医学部附属病院や愛媛医療センターをはじめ、多くの医療機関があり、令和元年6月に東洋経済新報社が発表した「2019都市データパック」における人口1万人当たりの医師数は、全国815市区の中で3位となっています。介護・福祉施設も数多く設置され、健康福祉と教育文化の香り高いまちとして発展を続けています。

### 元気産業、広域防災拠点の まちづくり

前述の地理的条件を生かして、2カ所の工業団地や工業系用途地に医療関連企業、製造業、運送業などの企業立地が進み、多くの雇用が創出されています。少子高齢化が進む中でのまちづくりにおいて、より良い仕事を求

める若年層の都市部への流出が懸念されることから、さらなる発信力を高め、将来性のある企業誘致に努めることとし、令和3年度の供用開始に向けて新たな工業団地を整備しています。

この工業団地については、これまで多くの企業に関心を寄せていただいていることに感謝するとともに、多くの雇用が生まれ、移住・定住がより一層促進されることに大きな期待を抱いています。

また、その隣接地では令和5年度末の開通を目標に、西日本高速道路(株)との共同事業で「(仮称)東温スマートIC」の整備を進めており、市内各地から高速道路へのスムーズなアクセスを確保することで、新たな企業が進出しやすい環境が整い、本市を含む松山都市圏の経済活動の活性化につながる

ことを期待しています。さらには、県内各地で災害が発生した場合、陸上自衛隊松山駐屯地や県警機動隊から被災地への迅速な移動や各地からの救急患者の搬送時間短縮が可能となります。これらのことから、創造性と活力に満ちた元気産業のまち、県内屈指の広域防災拠点としてのまちづくりに向けた取り組みを進めているところです。

### 安全、安心、快適な 住環境づくり

本市の土地区画整理事業は、商業施設が集積する野田地区27・3ha、既存市街化区域であった田窪地区5・0haの整備を終え、現在、本市の中央市街地の一部である志津川地区23・1haの整備を実施しています。志津川地区は、国道11号や伊予鉄道横河原線「愛大医学部南口駅」に隣接する交通の便に恵まれた地域で、周辺には、各種学校、大学病院、福祉施設などが集積していることから、土地区画整理事



(仮称) 東温スマートインターチェンジのイメージ図



上空から見た志津川地区。中央右が愛媛大学医学部、その右側が伊予鉄道横河原線

業の実施により、子育て・医療・福祉の拠点として、移住定住の受け皿の一つとなっています。

また、将来にわたって安全、安心、快適な住環境を守っていくため、住民ワークショップや勉強会を開催し、住民自らが目指す「まちの将来像」を描き、住民が主体となってガイドラインを定め、「景観まちづくり計画」を策定しています。これにより、現在は、魅力的な街並みが形成されつつあり、平成30年度にはこれらの取り組みが評価され、「公益社団法人街づくり区画整理協会会長賞」を受賞しています。

## 舞台芸術の聖地を目指して



東温キッズミュージカル「明日を信じて」

平成29年6月、「東温市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、瀬戸内の歴史文化を舞台芸術で発信する常設劇場「坊っちゃん劇場」を核として、「東温市」舞台芸術の聖地を目指す「アートヴィレッジとうおん構想」を策定しました。

この構想は、舞台芸術の観賞、体験、創造の場づくりを通じて、交流人口の拡大や市の認知度向上を図り、人が人を呼ぶ好循環を市全体に波及させていこうとするものです。活動拠点として、坊っちゃん劇場に隣接する商業施設内に小劇場、多目的稽古場、アトリエを備える「東温アートヴィレッジ

## プロフィール

「センター」を平成30年4月にオープンさせ、年間約1万1千人が訪れる芸術の拠点としてスタートを切りました。

また、舞台芸術に関する専門人材が地域おこし協力隊として移住し、各隊員が専門分野のディレクターとなり、音楽や演劇など多様な特色のある舞台芸術の祭典「とうおんアートヴィレッジフェ

ステイバル」が開催され、平成30年度は市内外から約5千人が訪れました。

こうした交流を通じて、地域や考え方、世代の壁を越えて人々がつながることで、次々と市民主体のプロジェクトが立ち上がっており、今後も持続可能な地域社会の実現に向けて、主体的にチャレンジする市民を応援していきます。



東温市長  
加藤 章

〔市町村合併〕平成16年9月21日、重信町、川内町が合併

〔まちの特徴〕県都松山市に隣接し、温暖な気候や恵まれた自然環境に加え、医療環境も充実した、安心して快適な住みやすいまち

〔将来都市像〕小さくてもキラリと光る 住んでみたい 住んでよかった 東温市

- ◆ 面積 211・30 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万3481人
- ◆ 世帯数 1万5110世帯



〔特産品〕はだか麦、もち麦、いちじ、ほっちょ鶏、どぶろく、さくらひめ、シキミ

〔観光〕風穴、白猪の滝、滑川溪谷、さくらの湯、さくらの湯観光物産センター、坊っちゃん劇場、東温アートヴィレッジセンター

〔イベント〕源太桜まつり、東温市商工会産業まつり、観月祭、どてかぼちゃカーニバル、白猪の滝まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。